



麺類紀行 / 300km/hは速い！編

1999年2月7日掲載

今月は、4回にわたって「麺類紀行」をお送りする。

このツアーは、突如として思い立ったもの。博多の屋台と高松の讃岐うどんを食べるのが目的だ。

行程は、東京から500系「のぞみ」に乗って岡山で下車。瀬戸大橋を渡って讃岐うどんを食べ、翌日新幹線で博多へ。屋台でラーメンを食べ、福岡空港発の最終便で東京に戻るといふ、1泊2日の旅である。

11時56分、500系「のぞみ」13号は東京駅を発つ。ホームには、飛行機のようなフォルムを持つ500系新幹線を一目見ようと、子供たちが集まっていた。いつの時代も、新幹線は子供たちのアイドル的な存在だ。

車内で、東京駅で買った駅弁を食べる。ほかの乗客も、皆同じ行動をとる。時間が時間だけに、車内での昼食となるのだ。

500系「のぞみ」は、現在フランスのTGVなどと並んで300km/hを出す列車。もちろん、ギネスブックにもその記録が掲載されている。

ただ、東京 新大阪間の東海道新幹線では、従来型(300系)の「のぞみ」と同じ270km/hしか出せない。それでも、新大阪を出ると本来の「俊足」ぶりを発揮する。

姫路を出た直後、車内の表示が「ただいま300km/hです」と出る。風切り音が、まるで飛行機のジェットエンジンのように「ヒューン」と聞こえる。

スピードもスピードなので、このまま羽根があったら絶対に空を飛ぶ！ いや、実は線路から2cmくらい浮いている?! うそうそ。ちゃんとレールの上を「飛ぶように」走っているのだ!!

正直な感想 「はっえー！」。今現在、一般市民が合法的に乗れる地上最速の乗り物なのだ。

15時8分、岡山に到着。せっかくなので、岡山を発車した500系「のぞみ」をデジカメに収める。



時間があるので、岡山で途中下車。でも、ここから先は[次回](#)までのお楽しみとしておこう。

[\[トップページ\]](#)



麵類紀行 / 讃岐うどんは美味！ 編

1999年2月13日掲載

[前回](#)に引き続き、4回シリーズの「麵類紀行」の2回目をお送りする。

500系「のぞみ」13号で岡山に着いた私は、瀬戸大橋を渡る「マリンライナー」の発車までまだ時間があるため、岡山で途中下車。すると、駅前で成人式帰りの女性4人組にナンパされるのではなく、カメラマンを頼まれる。

「任務」を果たしたあと、駅前にあるレコード店へ。すると、東京で探してもなかなかなかったCDを発見した！ 思わず購入してしまう。そのCDは、映画「バックドラフト」のサントラ。すでに国内盤は廃盤になっており、輸入盤しかないのだ。余談だが、このサントラから、料理人が対決するTV番組の音楽がピックアップされている。

その後、岡山市内を歩き回る。岡山駅前から岡山城に向かう道は「桃太郎大通り」という名前。いかにも岡山らしい。

さらに、岡山市内を歩き、本屋を見つける。そこで、時間をつぶす。

そして17時31分、瀬戸大橋を渡る「マリンライナー」49号に乗車。車内は、意外に混んでいた。でも、ほとんどの人が瀬戸大橋を渡らずに降りてしまう。

いよいよ瀬戸大橋を渡る。ただ、すでに夕闇で島も海も船も区別が付かない。

やがて、車窓に石油コンビナートが見えてきた。これは坂出のコンビナート。そう、香川県が見えてきたのだ。

瀬戸大橋をあっという間に渡り終え、坂出に到着。ここで、現地のナビゲーターに会う。

現地ナビの車に乗り、とりあえず高松へ。実は今回の旅、行程が急きょ変更になっていた。

本来、香川で泊まる予定はなかったのだ。そこで、以前高松に旅行したときに泊まった宿へ向かうことになった。

高松駅前のビジネスホテルに到着。入口に「本日は空室があります」のプレートがある。これはラッキー！ 早速チェックインして、荷物を部屋に置いてくる。

現地ナビに、うまいうどん屋に連れていってもらう。それは丸亀にあった。営業時間は8時までで、入店時間は7時50分。ぎりぎりセーフだ。

讃岐うどんといえば、やっぱり釜揚げで食べるのが醍醐味というもの。現地ナビと一緒に、釜揚げを注文する。

待つこと数分、待ちに待った讃岐うどんの登場だ！ うどんの腰、のど越し、どこをとっても美味！美味！美味ー!! これが本場の味なのだ。本場の讃岐うどんを食べると、東京でうどんがうどんじゃないような気がする。

うどんのあとは、現地ナビとお茶。その後、瀬戸大橋の見える高台に向かう。そこで、デジカメで瀬戸大橋の夜景を撮ろうとした。しかし、暗すぎてNGなのだ。

以前、横浜のベイブリッジの夜景を撮ろうとしたときもダメだった。やっぱり、ダメなものはダメなのか？ それとも、カメラマンの腕がダメだから？

そして、現地ナビの車で高松の宿に到着。現地ナビに重ね重ねお礼を述べ、お別れする。この日のふくちゃんは、至福感いっぱいでした。

この続きは、[次回](#)のお楽しみ！

[\[トップページ\]](#)



麵類紀行 / 再び300km/h！ 編

1999年2月20日掲載

今月は、4回シリーズの「麵類紀行」をお送りしている。今回は、その3回目。なお、前回は[こちら](#)、第1回は[こちら](#)をクリックしていただきたい。

2日目の朝を迎えた。この日は9時に起床。高松の駅前にあるこの宿は、窓から瀬戸内海が見える。

高松港に出入りする船はもちろん、瀬戸内海の島々も窓から眺めることができる。島々の中でも、高松港の向かいにある女木島は、桃太郎に出てくる「鬼ヶ島」として有名。そう、瀬戸内海の向こうは、桃太郎のふるさと岡山なのだ。

高松の宿を出て、高松駅に向かう。新聞と家へのおみやげを駅売店で調達し、博多へ向かうための切符を手配する。

博多には、岡山まで出て新幹線というルートを選ぶ。時刻表で調べてみると、何とこの時間だと500系「のぞみ」に乗れることが判明。前日も乗ったが、やはりまた乗ってみたい。

みどりの窓口では、難なく500系「のぞみ」の指定席がとれた。つまり、再び300km/hが体感できるのだ！

駅の立ち食いうどん屋で朝食。今回は、カレーうどんにした。メニューはうどんのみで、そばはない。さすがはうどん王国、讃岐の国だ。

うどんを食べ終え、高松9時50分発の「マリナー」18号で岡山へ。前日と違い日があるので、瀬戸大橋からの景色を堪能する。そして、こんな建造物をこしらえた人間の英知に感動する。

岡山に着き、新幹線に乗り換え。そして11時8分、500系「のぞみ」5号が岡山に到着した。とりあえず、デジカメでとって見たのがこの写真。



よく見ると、ヘッドライトに十字の輝きが。別に意図したものではないが、写真のときにちょっと

満足。

再び、300km/hの世界を味わう。300km/h = 83.3m/s、つまり1秒間で83mも移動することになる。たった1秒で83mなのだ。

不動産の広告でよく見る「徒歩 分」は80m/min、すなわち1分で80mというスピードを基準にしている。ということは、人間が1分かかる距離を、500系「のぞみ」はその1/60に当たるたった1秒で走っていることになるのだ。

それにしても、景色が見えない！ 窓際なのに、景色が見えない。もちろん、カーテンもしていないのだから。

何しろ、トンネルが多い。東京 新大阪間の東海道新幹線に比べ、新大阪 博多間の山陽新幹線はトンネルだらけなのだ。

ちょっと走ってすぐトンネル、抜けてちょっと走ってまたトンネル。これの繰り返し。持参した地図帳も、何となく役立たずになっていたりする。

そんなことを考えているうちに、博多に到着。駅を降り、地下鉄に乗ろうとした。

そこで、案内看板に目が止まる。この案内看板、日本語と英語のほかに、中国語やハングルでも書かれているのだ。

「さすがはアジアの玄関」と、妙に関心。そして、福岡市の繁華街、天神に向かった。

[次回](#)は、いよいよ最終回！

[\[トップページ\]](#)



麵類紀行 / 長浜の屋台を堪能！ 編

1999年2月28日掲載

今回は、4回シリーズの「麵類紀行」の最終回。1回目は[こちら](#)、2回目は[こちら](#)、3回目は[こちら](#)をご覧ください。

博多に着いたふくちゃんは、地下鉄で天神に向かう。天神で、M印のファストフードを発見。時間も時間なので、ここで昼食。内心、「天神まで来てM印はないよな」と、ちょっと後悔する。

店を出て、キャナルシティに向かう。しかも歩いて。途中、中洲で客引きに遭う。昼の2時から、客引きもご苦労なことだ。

20分をかけ、キャナルシティに到着する。このキャナルシティ、一言でいうと「複合アミューズメント施設」。ショッピングモールや巨大ゲームセンター、映画館やホテルが1か所に集まっている。

中を探索し、広場の噴水を見て興奮する。この噴水は、高さ15mくらいまで水を吹き出す。しかも、いくつもの噴水がシンクロしているのだ。これは見ていても飽きない。

キャナルシティをあとに、再び天神に戻る。デパートで明太子と職場へのおみやげを購入して、屋台の開店時間を待つ。

福岡市内には長浜、天神、中洲の3か所、屋台の集結している場所がある。この中で、今回私が行くのは長浜。屋台は夕方5時をすぎないと開店しない。

それでもまだ時間があるので、天神からバスに乗り福岡タワーへ。私は、何年かぶりにバスに乗る。しかも、整理券方式はもっとご無沙汰である。

8000枚のハーフミラーガラスに覆われた福岡タワーに上る。この福岡タワーは、高さ234m。TVとFMのほか、各業務無線の送信所にもなっている。

高さ123mの展望台で、福岡市内を一望。福岡空港に向かう飛行機や、福岡湾の対岸にある能古島や海の中道などを見る。ただ、さすがに

対馬や朝鮮半島は見えない 当たり前か?!

福岡タワーから徒歩30分+地下鉄5分+徒歩7分で、長浜の屋台に到着。片側1車線の道の歩道に、屋台がズラーっと並んでいる。



このうちの1軒に入り、ラーメンを注文。するとわずか2分ほどで、とんこつラーメンが出てくる。麺が細いので、ゆでる時間が短いのだ。

ツルツルっと平らげ、替え玉(麺のお代わり)を頼む。替え玉はゆであがった麺をもとの器に入れるので、スープを飲み干してはいけない。

替え玉と一緒に、牛タンをオーダー。屋台とはいえ、おでんやステーキ、餃子や煮魚まであるのだ。

牛タンには、酸味の利いたたれがかかっていた。これが、牛タンや付け合わせのキャベツに合うのだ!

ラーメン450円+替え玉100円+牛タン1000円で、しめて1550円也。ふくちゃん、屋台の味を堪能してすっかりご機嫌!! その勢いで天神まで歩いてしまう。

ただ、天神に着いて気づいたことが1つだけある。親不孝通りに行かなかったこと。まあ、ふくちゃんは親不孝ではないので、無縁 ?!

天神から地下鉄に乗り、福岡空港へ。福岡空港は、日本で唯一の地下鉄に直結した空港だ。天神からでも10分ほどで着いてしまう。

航空会社のカウンターで、予約した航空券を購入。本来、東京 福岡線は27400円だが、40%割引になる席があるというので、それを予約した。お値段は16450円なので、新幹線より7000円も安いのだ。「競争はいいことだ」と痛感する。

3連休2日目の最終便ということもあって、空港内は閑散としている。待合いロビーも、最終便に乗る人だけしかいない。

いよいよ鶴マークの最終便に搭乗し、福岡空港を離陸。わずか1時間ほどで羽田に到着してしまう。さすがは飛行機だ。

飛行機に乗って気づいたのが、スチュワーデスの愛想のよさ。だから某横綱がスチュワーデスに一目惚れし、そのまま嫁さんにしたわけだ。

でも、今は 。

羽田空港では、親が自動車で迎えに来る。自宅への道すがら、福岡ナンバーの車を2台も発見。これでは、東京に帰ってきた気がしないなあ。

これで、ふくちゃんの「麵類紀行」は完結。今回はひとり旅だったが、今度は誰かとふたり旅を試みたい。でも、それ以前に「誰か」を見つけなくてはいいなかつたりする。

[\[トップページ\]](#)